

Yuto Saika

# 10年後の私



1

# 10年後の私

Yuto Saika





# 10年後の私



高校2年の2学期も、もうすぐ終わろうとしている。

と言っても、これから待っているのは、期末テストだ。

期末まであと2週間ちょっと。

今日は、部活ができる最後の土曜日だったから、遅くまで練習が続いた。

気づけば、辺りはもう暗くなっている。それに、雨まで降り始めたようだ。

この辺りは、比較的安全な方だけど、暗い夜道を1人で歩くと思うと、なんだか不安になってくる。

「...よし、帰ろう。」

なんとなく、気合を入れてあたしは歩き始めた。

＊

「あの、すみません。」

前から声がした。下を向いて歩いてたから、前に人がいるなんて気づかなかった。

「芹沢真子さんですね。」

どうして、あたしの名前を知っているのか、

「そうですけど...」

って、答えたけど、この人誰だろう。見たことあるような...

「お話があります。」

＊

あたしに声をかけてきた人は、10年後の私だという。

あんまり信じられないけど、彼女がいうには、高校2年の時に助けられなかった人がいるんだとか。全然、思い当たる節がないけど、いったい誰のことなんだろう。

それより、何より驚いたのは、彼女のこの言葉だ。

「私がここにいる少しの間、私の代わりに10年後の世界で生活してほしいの。」

とりあえず考えとく、と言って帰ってきてしまったけれど、これからどうなるんだろう。

まあ、明日考えればいいか...

今日はもう寝よう。

＊

「ピピッピピッピピッ...」

目覚まし時計が鳴ってる。

早く止めないと...

あれ？いつもの場所に目覚まし時計がない。

もう、どこで鳴ってるの？

あ、止まった。と思ったら、

「おはようございます。11月16日日曜日、さそり座は、星座占い第2位です。今日の予定は……」

いきなりしゃべり始めたんだけど、えっ、どうしたらいいの。

とりあえず、今日の予定は、香坂さんがここに来るらしい。それだけっぽいけど、香坂ってあの子かな？学校には1人しかいないけど、あの子とはあんまり話したことないし、やっぱり、違う人かな。

それよりも、ここはあたしの部屋じゃないみたい。よく考えれば、家具も間取りも景色も全然違う。なんで、すぐに気づかなかったんだろう。もしかして…

壁に文字が青く光ってる。たぶん、さっき目覚まし時計がしゃべってたことが書いてあるんだと思う。日付けは、2025年11月16日。

ああ、やっぱり。昨日は確か、2015年11月14日の土曜日。

あたしは、どうやら10年後の未来に来てしまったようだ。

そうと分かれば、家の中を探索してみよう。

何か面白い物があるかもしれない。

まず目に入ったのは、冷蔵庫。

大きさは、一人暮らしには少し大きいくらいだけど、その表面はまるで、iphoneのホーム画面だ。今、ヨーグルトがあと1日って赤い文字で表示されてるけど、これはきっと賞味期限を表してくれてるんだ。それに、普通にインターネットにもつながるから、料理のレシピとかも見ることができる。

やっぱり、10年経つだけで結構変わるんだな。

「ピンポン」

「香坂さんがいらっしゃいました…」